

特別支援学級（知的障がい/自閉症・情緒障がい）総合的な学習の時間指導案

日時	平成30年11月8日（木）5校時
生徒	星組（女子1名、男子1名） 風組（女子4名、男子2名）
場所	風組教室
授業者	高橋 みどり 高橋 栄子 小田 明子

1 題材名 「先輩の高校生活から学ぼう」

2 題材設定の理由

（1）生徒について

本校の特別支援学級は、知的障がい学級（星組）2名と自閉症・情緒障がい学級（風組）6名が在籍している。星組の生徒と風組の生徒と一緒に活動する機会が多いため、互いの性格は概ね理解し合って生活している。大多数の生徒は、保健体育、音楽、美術の授業を交流学級で学習し、それ以外の授業を支援学級で学習している。また、普通高校に進学することを希望し、ほとんどの授業を交流学級で学習している生徒もいる。

中学校卒業後の進路選択に関しては、特別支援学校にするか普通高校にするかで揺れている生徒や保護者が少なくない。

言語活動に関しては、最後まで口を挟まずに人の話を聞く、話の要点をつかむ、質問の意図を理解できる、自分の意見や考えを根拠や理由を含めて話すなどの「言語力」「コミュニケーション能力」にそれぞれ課題を持っている。

（2）題材について

本校の総合的な学習の時間の目標は、「社会生活を営む上で必要な多様な力を身につけ、自己のよりよい生き方について考えることのできる生徒を育成する。」となっている。「働く」とはどういうことを学び、社会生活に必要な基礎的な力を育むことをねらいとして、本学級では9月に矢巾中と合同で校外学習を実施した。訪問先は障がい者雇用も行っている矢巾町にある工場と志望先の一つである特別支援学校の高等部である。

工場見学では、実際に働いている方々を見て学ぶ良い機会となった。また、盛岡の特別支援学校までの通学体験では、券売機での切符の買い方、JRやバスの利用の仕方、矢巾から盛岡の特別支援学校までの通学経路などを知ることができ、中学校卒業後に必要なスキルの学習を実際に体験することができた。同じく9月に、2年生は通常学級の生徒たちとともに2日間の職場体験学習にも参加し、働くことや自己の生き方について考える機会を得た。

本学級在籍生徒8名中3名が3年生ということもあり、高校一日体験学習や特別支援学校の入学相談、面接練習など進路に関する言葉を日常的に耳にしているため、3年生はもちろん、1、2年生も中学校卒業後の進路に関しては興味・関心が高い。しかし、興味・関心は高いものの教師の話や進路に関する資料だけではなかなか具体的なイメージをもちにくいようである。

そこで、本題材「先輩の高校生活から学ぼう」では、昨年度本学級を卒業した5名の先輩たちから直接生の声を聞く「先輩から学ぶ会」を単元の中心に位置づけ、それに向けた事前学習や事後学習を入れ、単元を構成した。一連の学習を通し、自身の生活を見つめ直し、高校進学に向け中学校生活で必要とされる力に気づかせ、今後の進路選択の一助としたい。

本時は先輩を招いての、「先輩から学ぶ会」を開き、「高校と中学校生活の違い」や中学時代のうちに身につけていきたい力について生徒個々に考えさせる時間としたい。

（3）指導・支援について

「先輩の高校生活から学ぼう」の学習では、個々の生徒の課題や目標を明らかにし、学習計画を表に示し、役割分担を視覚的に掲示するなどして見通しを持たせたり、話をする、聞く等の基本的なスキルを繰り返し確認したりするなど、生徒が安心して学習できる支援を工夫していく。

本校の研究テーマに関わっては、学校生活や教育課程全体を通じて、自分の考えを適切な言葉を使って書いたり、発表したり、質問や意見交換したりする「言語活動」を意識して支援してきた。生徒の『伝え合う力』を高めるために、事前学習の先輩に質問したい内容を考える活動、実際にインタビューする活動、先輩の話聞く活動、小グループでの意見交流活動、先輩へのお礼状書き活動など、多様な場面を設定した。これらの活動を通して生徒が楽しみながら経験を積み重ね、『伝え合う力』をつけていきたい。

3 題材の目標

- (1) 進学先に興味を持ち、調べ学習や「先輩から学ぶ会」に意欲的に参加することができる。
- (2) 先輩の話から中学校生活と高校生活の違いを学び、高校生活についてイメージすることができる。
- (3) 高校生活に適応していくためには、どんなことを心がけて生活したら良いか考えることができる。

4 題材の指導計画（総時間8時間）

時	主な学習内容	指導・支援上の留意点等
1	オリエンテーション 「先輩から学ぶ会」のねらいと日程を確認し、役割分担をする。	・昨年卒業した先輩から高校生活の様子を聞き、自分の進路選択に役立てることを伝える。 ・学習の見通しを持たせ、8人で事前学習の役割分担をする。 江南義塾（2名）峰南高等支援（2名）みたけ支援（2名）北日本専修（2名）
2 3	事前学習 ・インターネットや高校のパンフレットなどで進学先について調べる。（所在地、生徒数、学校の特色と時間割、卒業生の進路状況） ・高校の特色を模造紙1枚にまとめる。 ・各グループで調べたことを全体で交流する。	・パンフレットから必要な情報を得やすくするために、まとめ方の見本を黒板に示しておく。 ・グループで調べたことを全体で交流し、全員に4つの高校についての基本的な知識を理解させる。 ・他のグループのまとめに興味を持てるよう、教室に掲示させる。
4	先輩への質問内容を考える。	・進学後の生活がイメージできるよう、考えるポイントを示す。（例）起床時刻と通学方法、1週間の時間割、好きな授業、部活動、行事、楽しいこと、大変なこと、中学校と高校との違い、入試方法、中学生へのアドバイス
5	「先輩から学ぶ会」（本時） 先輩から高校生活の話聞き、中学校と高校の違いを知る。 ・卒業生に事前に送った質問内容に添って、先輩にインタビューする。 ・感想や気づいた事を4人グループで交流し合い、代表者が発表する。	・疑問点があれば、先輩に質問してよいことを伝える。 ・戸惑わないように、事前に役割や進行の仕方を確認しておく。
6	自分の生活を振り返る。	・中学校生活と高校生活の違いに気づきやすくするために、自分の平日の朝の時間の使い方を想起させ、先輩から得た情報と比べさせる。
7 8	先輩への手紙を書く。	・手紙の書き方のモデルを提示する。 ・印象に残った先輩の言葉、自分の決意などを入れて手紙を書くように指導する。

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・先輩から高校生活について話を聞き、高校生活について知ることができる。
- ・高校生活と中学校生活の違いについて考え、グループ内または全体で、相手に伝わるように自分の考えを発表することができる。

※「思考力・判断力・表現力」を育てるための言語活動のポイント

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 | 先輩にインタビューし、必要な情報をメモする。(①) |
| 2 | 中学校生活と高校生活の違いについて気づいたことを交流し合う。(②) |

(2) 本時に関する実態と個人のねらいと支援

生徒	言語活動に関して(課題点、現状など)	個人のねらい	支援
A 男3年 知的	<ul style="list-style-type: none"> 自分の意見を話すことや書くことに苦手意識を持っている。語彙に乏しく、話を組み立てる力に課題がある。 自信がない時に、声が小さくなる。 困ったことを解決できない時に、声をかけられるまで待っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことを書く(初級レベル)。 相手に伝わるように話す(声の大きさ、速さ、態度)。 書き方が分からないときは質問する。 	ワークシートの穴埋め(初級) 声の大きさの指標 声をかける
B 男3年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 人の話を最後まで聞かずに質問したり、説明の途中で活動を始めてしまったりすることが多い。 大人数の前で堂々と発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 最後まで話を聞き、高校生活についてわかったことを書く(初級レベル)。 	ワークシートの穴埋め(初級)
C 男3年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 大人数や初対面の人前で話す時は緊張のため下をむいてぼそぼそ話す。 周りが気になり集中できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことを書く(初級レベル)。 顔を上げて発表者の話を聞く。 	ワークシートの穴埋め(初級) 声の大きさの指標・話し方のポイント 聞き方のポイントを示す。 声をかける
D 女2年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話の要点を捉えて聞くことや、自分の考えをまとめることが概ねできるが、わかっているかどうかの反応が弱い。 大人数の前で発表する時は声が小さくなってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことをメモ欄も活用して書く(中級レベル)。 相手に伝わる声の大きさと話す(グループ、全体)。 	ワークシートのメモ欄(中級) 声の大きさの指標
E 女2年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話の要点を捉えて聞くことや、自分の考えをまとめることが概ねできるが、わかっているかどうかの反応が弱い。 聞き取りやすい声で相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことをメモ欄も活用して書く(中級レベル)。 相手に伝わる声の大きさと話す(グループ、全体)。 	ワークシートのメモ欄(中級)
F 女2年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 相手の目を見てうなずきながら聞くことや話の要点を捉えて聞くことができる。自分の考えをまとめることも得意である。 大人数の前で発表する時は声が小さくなってしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことをメモ欄も活用して書く(中級レベル)。 相手に伝わる声の大きさと話す(グループ、全体)。 	ワークシートのメモ欄(中級) 声の大きさの指標
G 女1年 知的	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話の要点を捉えて聞くことが非常に苦手である。 聞き取りやすい声で相手に伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活について聞いた項目をチェックする。 短文でもいいので、わかったことを書く(初級レベル)。 	ワークシートの穴埋め(初級)
H 女1年 自・情	<ul style="list-style-type: none"> 慎重で時間がかかるが、相手の話の要点を捉えて聞くことや、自分の考えをまとめることが概ねできる。 大人数の前で発表することが非常に苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生活についてわかったことをメモ欄も活用して書く(中級レベル)。 一言でもいいので相手に伝わる声の大きさと話す(グループ、全体)。 	ワークシートのメモ欄(中級) 声の大きさの指標 声をかける

(3) 本時の展開

学習過程 (分)	学習活動	支援上の留意点	教具等
導入 見通し 5分	1 元気よくあいさつする。 2 本時の目標を確認する。	・先輩たちにも元気よくあいさつできるように、事前に声がけする。 ・校外学習の写真と事前学習でまとめた物を見せて、これまで学習してきたことを思い出させる。	事前学習資料 写真
展開 課題 解決 35分	先輩の話を聞いて、中学校生活と高校生活の違いを知ろう。 言語活動① 先輩にインタビューし、必要な情報をメモする。 3 言語活動① (10分) ・担当したペアで、先輩にインタビューする(記録者は聞き取ったことをメモする)。 4 質疑応答 (5分)	・インタビューの担当者には、聞き手がいることを意識させ、間の取り方などにも注意させる。 ・記録者には聞き取ったことを忘れずにメモさせる。 ・聞き手は相手の顔を見て話を聞く。 ・先輩が来られない場合はビデオで紹介する。 ・先輩の話を聞いて、疑問点やさらに知りたいことがあれば、遠慮なく質問して良いことを伝える。	マイク メモ帳 ワークシート ビデオ テレビ
	言語活動② 中学校生活と高校生活の違いについて気づいたことを交流 5 言語活動② ・中学校生活との違いについて気づいたことを各自でワークシートに記入する (5分) ・4人グループで交流しあう (10分) ・グループの代表者が発表する。	・自分の考えを書き始められない生徒には、先輩の話の内容を思い出させ、現在の自分の生活と違うと気づいたことを書くように支援する。(通学が大変になること、忙しい生活リズムになること、実習が増え、体力が必要なことなどに気づかせる。) ・司会者、発表者、タイムキーパー、記録者の役割を確認する。 ・発表者には参観者にも聞こえるくらいの声の大きさと話すことを意識させる。 ・仲間の発表を聞く姿勢(話し手の顔を見て、うなずきながら)をもたせる。	司会の シナリオ タイマー
終末 振り返り 10分	6 本時の学習の振り返り ・本時の学習の振り返り、感想を発表する。 ・先輩に感謝の言葉を伝える。 7 元気よくあいさつする。	・机間巡視をしながら、全生徒の書いた内容をチェックし、自信を持たせてから発表させる。 ・先輩たちは、後輩たちのために時間をつくってわざわざ来てくれたということを伝え、感謝の意をあいさつで表現できるようにさせる。	振り返り シート

(4) 評価

- ・先輩から高校生活について話を聞き、高校生活について知ることができたか。
- ・高校生活と中学校生活の違いについて考え、グループ内または全体で、相手に伝わるように自分の考えを発表することができたか。